

平成 21 年 7 月 13 日

日本鍼灸師会全国青年部長会議報告書

青年部長 仲嶋 隆史

日 時： 平成 21 年 7 月 12 日（日） 11 時 ～ 16 時

場 所：（社）日本鍼灸師会会館

出席者：相馬会長、大湊組織局長、永島組織部長、重田青年部長、久保青年副部長
24 都道府県青年部長

大湊組織局長の挨拶から始まり、各都道府県青年部長の自己紹介を行なった。途中相馬会長も加わり議事を協議した。

議題は第 5 回日鍼会東京大会、第 6 回日鍼会京都大会、各県師会青年部について。

まず、重田部長から青年部の今後の展開的について

H 2 1 年度・・・青年部の予算使途を点検し、事業活動資金の捻出を図る。

H 2 2 年度・・・捻出した予算で日鍼会青年部事業を追加試行する。

理念的には鍼灸師法を始めとする、鍼灸師の基盤に関わる分野についても勉強し、その意識を啓発する内容の所信を述べた。

1. 第 5 回日鍼会東京大会について

青年部担当の教育講演、経営講座の進行状況を大畑関東ブロック長、阿部東京都青年部長から報告。教育講演は堀口美恵子先生の美容鍼、経営講座は福井県師会佐竹先生、東京都鍼灸師会儀間先生にスタッフを雇って経営している先生と開業してまもない悪戦苦闘している先生の現状を報告してもらうことが決定。当日の会場スタッフは東京都が受け持つ。本体懇親会には青年部も参加し横縦の繋がりを持ち、終了後 2 次会として青年部懇親会を行なう。

2. 第 6 回日鍼会京都大会について

重田新青年部長は目先の繁栄より 10 年、20 年先まで繁栄するような鍼灸師法設立も視野に入れた土台作りを今後の青年部の事業としてやっていく考えを述べ、京都大会では鍼灸業界の過去から学ぶことも大切とし啓発的なことを盛り込むのはいかがでしょうかと提案。他いかにして医師から同意書を得てもらいやすくするために具体的に医師を呼んで講演してもらいたい等の意見が出された。経営講座は 10 年、20 年後に繋がる話題を、教育講演は実技を含む各論を行なうことが暫定的に決まった。開催は平成 21 年 10 月 10・11 日京都テルサに決定

3. 各都道府県師会青年部について

各青年部の悩みは、いかにして若い鍼灸師を取り込むのか？若手の先生の実践が判らないなどの意見がだされ、北海道の「初学者の為の研修講座」を大湊局長から紹介された。

北海道では 3 年前から学生、準会員、開業 2～3 年目の先生を対象に会の活動、保険業務、実技を含む症例検討会などを毎年 1 回開催し 180 名ほどの参加者がいる。そのおかげで年 30 名程度の入会者が増えており、逆に退会者が 1～2 名程度に留まっている。との報告をしていただいた。

その他、各県日鍼、全鍼が一本になる動きが徐々に増えてきていることは青年部にとって新入会員の獲得にやりやすい等の意見がなされた。

確認・承認・合意事項：

1. 第5回日鍼会東京大会の準備は順調に進んでいる
2. 第6回日鍼会京都大会についてMLを活用して意見を募る。9月26日の青年部委員会までできるだけ集めたい

